



# 福居



会報  
第 20 号

昭和60年12月16日発行  
発行所  
福井商工会議所青年部会  
発行責任者  
淡島洋

## 全国大会特集

# 成せば成った

会長 淡島洋

たとえ一人一人の力は小さかったかも知れないが、それが二人、三人……そして全員が協力し合うことにより、あの全国大会をみごと成功に導びくことが出来たのだと思います。これは前記した通り、大会当日はもちろんのこと二年六ヶ月という長い長い日々を献身的にささげてくれた会員一人一人

人のたまものと深く深く感謝いたします。又、表面的には大盛況裡に終了したかも知れませんが、その裏には大小さまざまな問題点があったことも否めず、強く反省するとともに陳謝したいと思えます。さて「活かせ英知、若さで築こう地域の経済」のテーマのもと、



全国大会会場 フェニックスプラザ

全国から集った会員が、一、二五〇名、しかも、県外登録者が千名を越えた大会は過去にもなく、商青連でも高く評価されていた。綿密なキャンペーン活動の結果といえます。そして、式典は云うまでもないが、第二部の商青連大学ゼミナールでは、牧田道男顧問の教授役よろしく、会員の資質の向上と春年度の組織の強化と拡張という頭書の目的は達せられたように思われます。

又、第三部では藤本義一、金田正一両先生の記念講演では、二会場とも超満員で追加した補助イスでも足りなく熱気で満ちあふれていて両先生ともいつになく熱弁をふるったとやや興奮きみで帰られました。

いよいよ懇親会ですが、予想以上の参加者があり、ジュディ・オングの魅力の大きさに驚ろき、又完璧にちかい進行のすばらしさに感服しました。

今後、この全国大会の成功を機に、我が青年部は強い和をもって商青連の次期副代表幹事に決定した古川伸二君を先頭に前進して行きたいと考えます

## 商工の窓

まさかと思ったが、現実には魅せられてしまった。全国青年部諸君が、彼女が見せたのは何んだったろうか。あの衣裳、スタイル、美貌、歌、おしゃべり、それを引立たせた舞台、照明を含めた演出総てであったのだろう。中でも目に焼きついているのは、衣裳と照明の取り合わせではないでしょうか。衣裳の形が素晴しくても、その色が合わなければ引立たない、またそれが舞台の構成と照明の彩りにも。残像は色と形。万物にはすべて色がついている。そしてその色はその物のイメージを変えることすらある。即ちその物は色によって象徴できることである。なぜか、いま若い人が大正時代の拝情的なものや懐古調の配色を好む傾向がある。若い年代は濃い色、中年になるほど明るい色を身につける傾向です。深い色、濃い色、本当に味わいのある色の良さがわかって、それらを選ぶのならよいが、今の流行が——と云うだけで選ぼうとするのは、はたして自分を知っているのだろうか。色は魅せられるもの

# 全国大会をふりかえる

直前会長 古川 伸 二

程である。

「不死鳥のねがい」という坪田

秋晴れのもと興奮音楽隊のドリル演奏が規律正しく、こころ良い響を奏でている。続々と大会参加者が入場してくる。いよいよ始りだ。

式典……商青連旗入場のセレモニーで式はすべりだした。主催者や御来賓のあいさつが続く、参加青年部紹介のところで笑い声の出る幕もあり、徐々にムードが高まる。



式典会場



記念事業の贈呈 阿部代表から大武事長に



商青連大学ゼミナール



二会場で行われた講演会

バレエ団の創作舞踊や、武生の友情出演の「菊傘踊り」はいずれも見事な出来映えであった。

メインイベント「ジュディ・オンゲショー」で場内は最高潮に達し、あっという間にフィナーレを迎えた。最後まで人を引きつけ、且つ

授業が進行していく、今迄にない大変ユニークな企画だったが、見事に当初の目的を達した。

講演会……金田、藤本両氏共無事到着、ホッとす。二会場共超満員の盛況、冒頭より爆笑の過巻く中、講演が進んでいく、さすが著名人は違つなあ……。

懇親会……大会の仕上げともいへば懇親会は、90分という限られた時間で、会場は見事に宴の場に変身した。予想を超す参加人数で、一時は座席の確保に一破乱あつた

## 商青連次期副代表幹事に古川伸二君決定!



去る、11月9日全れ会選の日に開かれ、古川伸二君が副代表幹事に決定し、清水重君が代表幹事に連続して後継者として福井の古川伸二君が承認された。その後役員は互選で私が古川伸二君が次年度の副代表幹事に決定し、清水重君に続いて福井から清水重君を送り込むこととするが、私が部力もおしみにくくしましう。又、次年度代表幹事には、第4回全国大会を主管した茨城県の中山昌君に決定している。

## 大会の余韻

全国商工会議所青年部連合会副代表幹事

清水 慶 造

感動させた素晴らしい大懇親会であつた。

以上当日の様様をかげ足で振りかえつたが、いずれも大変立派に成功を納めたとの評価を各方面より頂いている。

又、会場部、総務部、渉外部は当日は、主として裏方へ廻つて頂いたが、各自、自分の持ち場を責任をもって担当され、陰の立役者になつて頂いた事は特筆すべき事だと思つ。本当に御苦労様でした。

私達は、今大会の大成功をステップとして、より団結を高め、青年部の未来の為に、今日から新しい一歩を踏みださうではありませんか。



大懇親会

二年前に旅に出た青年がいた。それは約二カ年を要し行先はまだ形はないフェニックス・プラザであった。目的地に予定通り到達すること、到着の日にはどのようなドラマを展開するか。夢があるではないか。青年達はドラマに夢を描きながら歩き始めた。十人が二十



大きく育て商青連の森



ジュディ・オンゲショー

静かにひとり酒を飲みたかつた。全国大会が開幕した。式典商青連アワー、記念講演、懇親会、大成功。やった、事故なく進行できた。全国各地より参加の青年部会員がおめでと、良かったよ、素晴らしい大会だったよの連発にて握手をかわし、さあ、ゆっくり一語に飲もうと声をかけてくれて張りつめていた身体に伝わる熱きもの、ある意味の興奮状態になつ

人に五十人と夢が伝わり、若い輪は広がり百人となった。我等百人が全国の同志千五百人を集めるものは何んだらう。私達がつけているもの、ささえられているものを旗印にして呼びかける。「活かせ英知若さで築こう地域の経済」全国行脚をしてわかつた。各地の青年部会員が互にこのテーマが我々が実践しなければならない真諦であると頑張っているではないか。これ

だ、これをより一層確認しあう大会で良い訳だ。目的がはっきり見えた、皆んなが集つた会場も立派にでき上つた。我が誇るフェニックス・プラザ。準備万全、あとは歓迎の心のみ。形のあるものはそれなりに見えるが見えないものを感していただこう。到達の日幕は上つた。終日予定通り進行、皆んな感激の中に幕は降りた。時は静かに過ぎてゆく、ひとりが心のスクリーンに写され、長い旅は終る。大切な思い出しよう。

建築・土木・舗装のゼネラルコントラクター

信頼の先進技術

## 石黒建設株式会社

取締役社長 齋藤 博

本社/福井市志比口1丁目7番1号 ☎(0776) 54-1496 番(代表)  
支社/敦賀・大阪・東京・金沢・小矢部・富山・交野

化繊織物専門産元商社

## 株式会社 中七商店

〒910 福井市成和1丁目2213  
TEL (0776) 23-6090(代表)  
FAX (0776) 23-6086

# 全国大会後の 青年部を考える

総務委員長 林 逸 男

# 現状の年代による会員

青年部顧問 牧 田 道 男

我が青年部会の主管した全国大会は成功裡に終った。全国大会を機に会員数が百名を突破し、組織が大規模になった。今までは「全国大会を成功させよう」という目標があり緊張感を伴った運営がなされてきたと思う。しかし、今後とも全国大会を契機に培われた活力を維持し、なお一層の組織の活性化が図られていくためには一工夫必要なのではあるまいか。それにはまず、我々は「何故に青年部会活動に参加したのか」という原点に立ち戻って考察してみることが肝要であろう。青年経済人としての資質を高めたいとか、会員間の交流を通じて豊かな人間関係をつくりたいとか、参加の動機はいろいろあり得る。そして、ほとんどの会員の青年部会に参加した目標については、実際に参加すればおらずと徐々に達成されていくものであるといつてよいであろう。問題は「実際に参加」するかどうかである。参加して楽し

いかどうかである。それでは実際に参加しやすいく状況を積極的につくり出すためにはどうすればよいか。誰でも、ことに青年経済人としての我々は「参加意識」を自己確認したいという欲求が強い。したがって、会員一人一人が「参加意識」を強く持てるような組織運営を図ることが組織の活性化をもたらすこととなる。

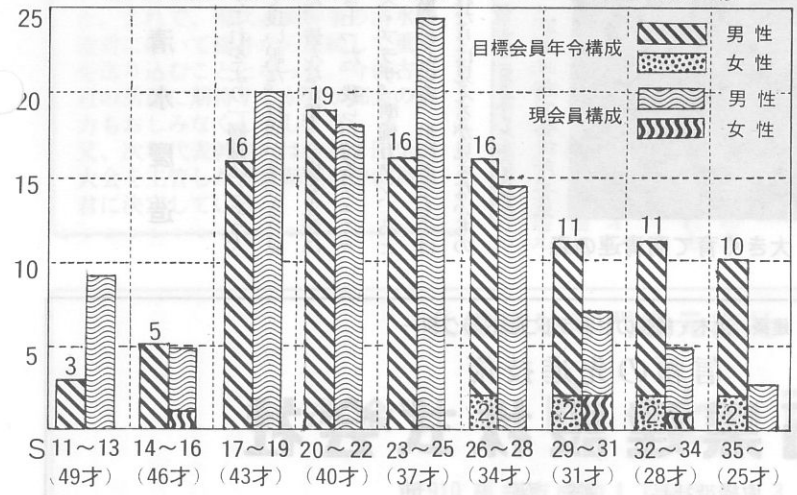
地域の経済の窓口を、受持つ我々青年部の、会員数変移を分析していくと、

- ④自然増と、義務総会増と、必要居残り組、さらに活力活性の為の加入組とのアンバランス変移と見ることが出来る。
- ⑤自己研修にが約20%、人間関係拡大、人縁づくりが約50%、情報と責任行動の充促にと考えてが約20%、その他となるようであるが、一つのこたえとして、

- ①人間愛(ゆとり)を大きくもてる「時間投資」という考え方。
- ②企業及び商売に役立つ、感覚導入と計算数、統計の活用力を身につける。
- ③ビジネスマンとしてのレベルアップを目標とした、コミュニケーションルートとしての存在価値、とならなくてはと考えるすがいかかですか？

現行の我が青年部会の組織を検討すると、会長、副会長のほか、総務、会員、広報、第一事業、第二事業の五委員会があるだけである。青年経済人の集まりであるという組織の特徴からみると、あまりに委員会の数が少なすぎる。各委員会の担当内容を総点検し項目ごとに委員会を構成して委員会数の倍増を実現し、委員会権限の強化と責任の明確化を図ることによって会員の「参加意識」が増大し組織の活性化がなされるものと信じてやまない。ご批判を乞う。

(人数) 青年部会の目標会員年令構成と年代による会員数変移



事項のアドバイスの立場をS17、20年代に、大事をとった結論的適確指示をS11、14年とところが受持つようだ。④、⑤、⑥、⑦、⑧のバランスのとれたチームワークアクションが身上となった。一人一任主義に期待します。